

終業の日校長挨拶

皆さんお帰りなさい。

3月2日以来、約3か月間、武蔵は昨年度の終業もできないまま学校を閉じました。

武蔵が長期間にわたって休校になったのは1945年以来です。記録によると1945年4月13日に空襲。4月17日から集団疎開開始。8月15日に終戦。その後の9月17日に、5か月ぶりに武蔵に生徒が集まり、授業が再開されたとあります。

それ以来です。75年前の武蔵生の気持ちと今の皆さんの気持ちは、ひょっとすると重なることがあると思います。でも違いもあるでしょう。

あの頃はとりあえず戦争が終わって、これから一体社会や生活がどうなっていくのかという不安でいっぱいだったと思います。でも空襲の心配がなくなった、生命の危機はなくなった、戦いは終わったという安堵感があったのではないのでしょうか。

今日はちょっと違います。やっと学校に来られたという開放感や懐かしさは変わらないと思いますが、ウィズコロナとありますが、コロナとの「新たな戦い」は続いています。特にここ東京は日本全国の中でも違った状況にあることを認識しなければなりません。市中感染は決して収まっているわけではありません。どこでどう感染してしまうかは分からない。出口に希望の光は見えてきましたが、長い道のりを我々は歩んでいかなければならない。ちょっと違うよね。

でも、もう一度「おかえりなさい」という言葉をまず諸君にはかけたいと思います。

今日はまず昨年度の「終業」を行ないます。そして次週は「始業」を行ないます。

5月7日の始業の動画でお話したように、すでに2020年度の授業はオンライン授業により、5月7日から開始しています。必要な授業日数を確保するため、夏休みは短縮し、7月は31日までが1学期。8月は夏休み。9月は1日から2学期の授業を開始します。

さて、いよいよ学校生活を再開するにあたって、私からは二つのことを皆さんにお願いします。

一つ目は、絶対に武蔵において不用意にクラスターを発生させないことです。なぜなら、クラスターを発生させることは、改めて武蔵の休校につながるからです。

したがって、絶対に無理して登校しない。そして登下校に際しては万全の注意を払う。

そして校内においては手洗い、アルコール消毒とともに、「三密対策」を意識する。武蔵の新しい生活スタイルという案内がHPで配られましたが、見ましたか。むさしの「む」は無理をしない。「さ」は早速検温。「し」はしっかり手洗いです。それを意識して下さい。

そして「三密」を避ける。これは本当は難しい。個人的な考えでは、「学校はまさに三密のなせる技」だと思いますし、「武蔵は三密の塊」だと思います。さらに言うと「人間にとって三密はとても大切なこと」だと思いますが、それがクラスターにつながってしまうんですね。これまでの何か月間で、私たちは新型コロナウイルスに関する知恵、経験知を我々は得てきている訳なので、十分にそのことを意識して行動してください。

でも万が一、感染者が出てそれもそれは現状では全く仕方のないことです。それはそれで、誰を責めるでもなく対応しましょう。よろしくお願いします。

二つ目は、時間の過ごし方についてです。これからの今年度10か月間という時を、制限はあるかもしれないけれど、瞬間瞬間に最善を尽くし、逆に最高の一年にしようということです。「時を取り戻す」という考え方もあるかもしれませんが、私は過去の時を戻すことはできないと思っています。大事なことは、「時を取り戻す」という後ろ向きな姿勢ではなく、これからの不自由でもあるけれど貴重な時間を工夫して、「瞬間瞬間に最善を尽くす」ということだと思います。

この三か月は確かに失った「とき」かもしれません。記念祭もできなかつたし、部活動もできなかつた。大会も参加できなかつた。

でも、この三か月間、皆さんは、そして我々は、限られた条件の中で、せいっぱいもがいたと思っています。オンライン授業もそうです。武蔵は全く基盤がない中で、先生方も意思疎通を図り、スキルをあげ、取り組みました。皆さんもステイホームという厳しい環境の中で、頑張ったと思います。記念祭も部活動もそうです。何とかできないかと、あがきもがいたと思います。通常どおりできなかつたことは辛いけれど、意味がなかつたわけではない。決して失われた時ではないと私は思うのです。

これからの時間は、当たり前前にできていたことができない不自由な時間かもしれないけれど、だからこそ「できること」と「できないこと」をしっかりと見分けながら、そうした中で最善の努力をすることが大事なのではないかと思っています。その結果、振り返ってみれば、武蔵の歴史上に残るくらいの最高の1年間を創り上げてほしいと願っています。

特に高校3年生にとっては、大学受験がどうなるのかという大きな心配事があります。だからこそ、やるべきことを愚直にやる。王道を歩むことが大事だと思います。我々も教職員一丸となって三年生をバックアップしようぜと考えています。

最後に、この点に関連して、アメリカの神学者でラインホルト・ニーバーという人がいます。彼の有名な言葉として「平静の祈り」というのがあります。

神様 おしえて下さい。

変えられないものを受け入れる心の平静さと

変えられるものを変える勇気と

その両者を見分ける知恵を。

学校再開にあたって、この言葉を皆さんに贈りたいと思います。

今日から武蔵は再開します。おかえりなさい。